

障害学生支援について

柴田学園大学では障害のある学生が、障害のない学生と同じように修学の機会が得られるよう、修学上の困難に対する合理的配慮です。

修学上の困難に対する支援では講義、演習、実習など科目の履修に関わることにについて、必要とされる配慮（調整）を行なうことを中心としています。また、大学での学びに困難がある際に、それを支える種々の支援も行なっています。

<支援（配慮）の対象と範囲>

対象：視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、発達障害、精神障害などにより修学上支障がある者

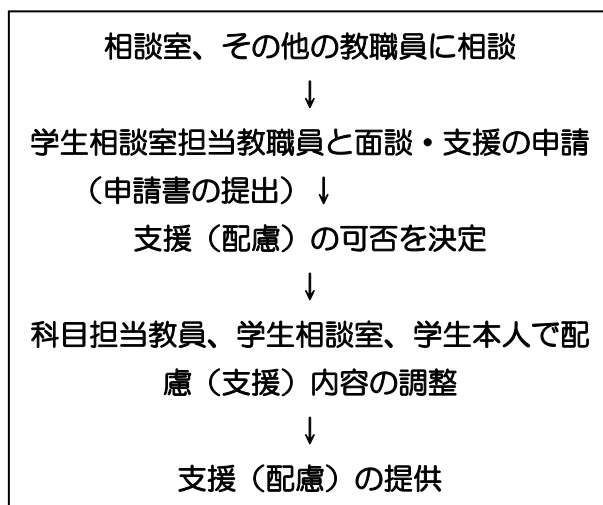
（必要性が認められる場合は、慢性的な疾病や一時的な怪我などの相談にも応じます。狭くとらえずにまずはご相談ください。）

範囲：講義・実験・実習、行事など必要かつ妥当であると認められる範囲

<支援（配慮）の内容、方法>

個々の状況やニーズと、科目の内容、講義の手法、成績評価の方法、当該科目の目的、目標等をふまえ、当該科目の担当教員と相談し、具体的な配慮の内容や方法を決定していきます。

<支援（配慮）を受けるまでの流れ>



<注意点>

- 相談から支援の提供までには時間がかかることもありますので、早めに相談することをお勧めします。
- 成績、単位の取得や実習への参加等を保証するものではありません。
- どうしても配慮が難しい場合もあります。